

# 令和4年度 内貝津橋遺跡 発掘調査成果説明資料

簡単ではありますが、用語解説を。

「遺構（いこう）」：建物や穴など、昔の人々が掘ったり築いたものの痕跡。竪穴住居（たてあなじゅうきょ）、土坑（どこう＝穴のこと）、溝、盛土などがあります。

「遺物（いぶつ）」：昔の人々の残した物。腐りやすいものは残りにくく、石や土器でできたものなどは残ります。よく見つかります。

「石器（せっき）」：石から作られた道具のこと。設楽地域では、長野県から来た黒曜石、飛騨地方から来た下呂石、豊川下流域産のチャート（堆積岩の一種）、鳳来寺山から産出する松脂岩（しょうしがん）が見られます。



内貝津橋遺跡の位置（国土地理院発行 1/25000 地形図に加筆）

内貝津橋（うちかいつはし）遺跡のデータ

所在地：北設楽郡設楽町三都橋内貝津

発掘調査期間：令和4年7月～10月

発掘調査面積：920m<sup>2</sup>

遺構・遺物の主な年代：縄文時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代

標高：約263m

令和4年度 内貝津橋遺跡発掘調査成果説明資料（令和4年10月公開）

編集  
配布  公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター  
HP <http://www.maibun.com>

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野防 802 の 24  
電話（0567）67 - 4163【調査課】  
Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

調査  
支援  株式会社 島田組 中部営業所

〒454-0804 愛知県名古屋市中川区月島町6-1  
電話（052）369 - 1677  
<https://shimadagumi.co.jp/>



内貝津橋遺跡の遠景（南側・当貝津川の方向から撮影、左端の橋が内貝津橋）

内貝津橋遺跡は、設楽町三都橋内貝津に所在する遺跡です。国道420号の道路拡張工事に伴い、令和4年7月より発掘調査を実施しました。

遺跡は当貝津川に栗島川が合流する地点の北東側の河岸段丘上に位置しています。すでに1968年刊行の『北設楽郡史』には調査地周辺で遺物が散布することが認識されていました。これらの情報に基づき、2020年12月に試掘調査を実施し、本発掘調査を行うに至りました。

今回の発掘調査の結果として、国道沿いに設定した東西に細長い調査区のうち、西半分は礫が多く、遺構・遺物ともに少なかったものの、東半分では掘立柱建物跡、土坑、鍛冶関連遺構も見つかりました。鍛冶関連遺構については、『北設楽郡史』にも近隣での鍛冶に伴う遺物の採取が報告されており、この報告を裏付けるものとなりました。これらの内容について、次ページ以降に詳しく説明を行っています。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました、関係者の方々、地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

# 内貝津橋遺跡出土の遺構と遺物



機械掘削の様子 (A区)

遺跡表面の新しい土は機械を用いて除去しました。この段階でも礫(岩)が多いことがわかります。



地面の下の礫 (A区)

A区では現在の地表面のすぐ下から大きな礫(岩)が出ました。この場所は平安時代以前は川であったと考えられます。

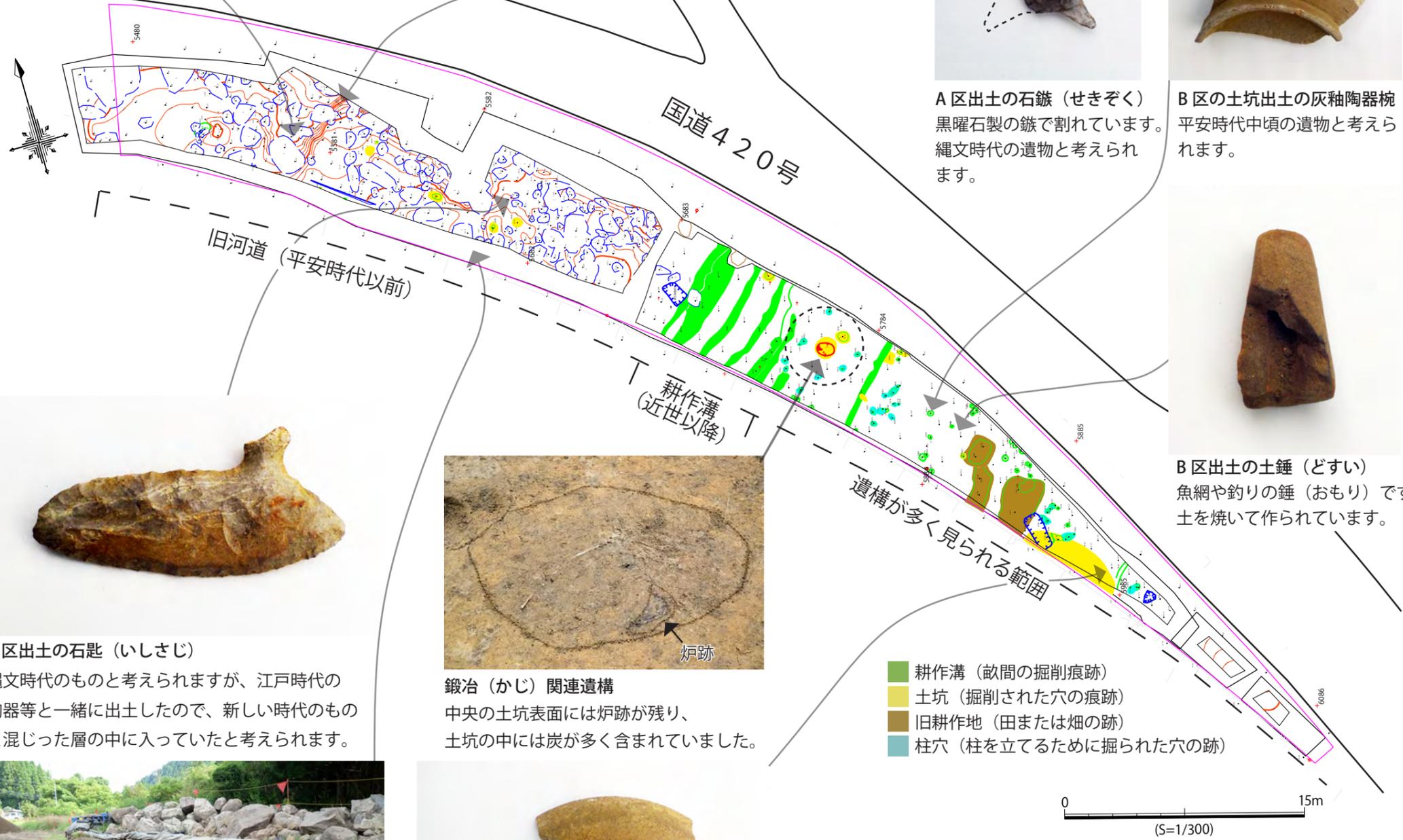


現在の栗島川の様子

上の写真と比べると、岩の大きさ、種類(花崗岩)ともA区の様子と同じでした。

うち かい つ はし い せき

い こう い ぶつ



A区出土の石匙 (いしさじ)

縄文時代のものと考えられますが、江戸時代の陶器等と一緒に出土したので、新しい時代のものと混じった層の中に入っていたと考えられます。



鍛冶 (かじ) 関連遺構

中央の土坑表面には炉跡が残り、土坑の中には炭が多く含まれていました。



堆積した断面の様子 (A区)

土の色は、その時によって異なった色の土が堆積します。ここでは色がはっきり見えています。



B区の土坑から出土した古瀬戸平椀  
室町時代の灰釉が施された平椀です。  
土坑の縁の部分から出土しました。



A区出土の石鏃 (せきぞく)  
黒曜石製の鏃で割れています。  
縄文時代の遺物と考えられます。



B区の土坑出土の灰釉陶器椀  
平安時代中頃の遺物と考えられます。



B区出土の土錘 (どすい)  
魚網や釣りの錘 (おもり) です。  
土を焼いて作られています。

内貝津橋遺跡の発掘調査では、縄文時代から江戸時代に至る遺構・遺物が出土しました。  
近現代の耕作によって土が掘り込まれた結果、さまざまな遺物が混じった状態で見つかることが多いのですが、石鏃や石匙は縄文時代のものと考えられ、これらの遺物はこの近くにあったものが埋まったと考えられます。近隣に縄文時代の遺構が残っている可能性はあります。平安時代や室町時代の遺物も多く出土することから、縄文時代から現代に至るまで、途切れることなく人々が居住したようです。